

# 2022 年度 自己点検・評価報告書

財務評価分科会

2023 年 2 月

## 基準 10 大学運営・財務

### (2) 財務

- 教育研究活動を安定して遂行するため、中・長期の財政計画を適切に策定しているか。
  - ・ 大学の将来を見据えた中・長期の計画等に則した中・長期の財政計画の策定
  - ・ 当該大学の財務関係比率に関する指標又は目標の設定
- 教育研究活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立しているか。
  - ・ 大学の理念・目的及びそれに基づく将来を見据えた計画等を実現するために必要な財務基盤（又は予算配分）
  - ・ 教育研究活動の遂行と財政確保の両立を図るための仕組み
  - ・ 外部資金（文部科学省科学研究費補助金、寄附金、受託研究費、共同研究費等）の獲得状況、資産運用等

#### 【1】2022 年度 of 取組み方針・改善計画（および中期的な改善計画）

「グランドデザイン 2021-2030」で掲げた戦略・計画や、キャンパス整備計画などを推進するための財政支出を行う。また、スーパーグローバル大学創成支援事業等については引き続き優先的に対応することとする。一方、諸施設の減価償却額や警備、清掃、システム関係等の各種委託費、維持費等の支出を見直しており、さらに本年度もコロナ関係経費を相当額想定しておかなければならない状況に鑑み、支出予算については継続事業の見直し、今後の将来計画に備えられる財務体質への改善を目指し、収支の改善に努める。

本年度の事業活動収支予算の事業区分ごとの収支差額見通しは次のとおりである。教育活動収支については、収入の部で、学生生徒等納付金、寄付金が減少する一方、経常費等補助金、寮費収入を含む付随事業収入、雑収入では増加を見込み、合わせて前年度比 10.3 億円減の 135.8 億円程度の収入確保となる見込みである。

教育活動外収支については、受取利息・配当金により収支差額は 32.1 億円の収入超過となる。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合わせた経常収支差額は、35.2 億円の支出超過を見込む。

特別収支差額は 10.6 億円収入超過の見込みである。

経常収支差額と特別収支差額を合わせた基本金組入前当年度収支差額は、26.6 億円の支出超過となる。基本金組入額は、駅伝部寮の新築工事や各所設備更新工事、スーパーグローバル大学推進事業基金への組入れなどで 5.6 億円を予定している。予備費はコロナ対策費などを含め、2.0 億円とした。当年度収支差額は 32.2 億円の支出超過となる。

これに基本金取崩額を折り込んだ翌年度繰越収支差額は 150.4 億円の支出超過となる。今後、収支改善へ向けたより一層の取り組みが急がれる。

#### 【2】2022 年度 of 取組みの点検・評価と 2023 年度以降の方針

##### 【2022 年度 of 取組みの点検】

2022 年度 収支補正予算では、収入の部は、当該年度資金収入として、409.5 億円を見込む（「収入の部合計（Ⅱ）」－「前年度繰越支払資金（Ⅰ）」）。

当初予算における当該年度資金収入は 358.8 億円であったが、寄付金収入、受取利息・配当金収入などの増加により、50.6 億円の増加見込みとなった。

支出の部では、補正予算における当該年度資金支出は、494.3 億円を見込む（「支出の部合計（Ⅳ）」－「翌年度繰越支払資金（Ⅲ）」）。

当初予算における当該年度資金支出は 397.5 億円であったが、教育研究経費等の減少の一方、資産運用支出の増加で 96.8 億円の増加見込みとなった。

教育活動収支については、収入の部で、学生生徒等納付金が当初予算対比 0.3 億円減となる一方、寄付金が 5.9 億円の増額補正、ならびに経常費等補助金雑収入で増加が見込まれ、合わせて当初予算比 0.4 億円増の 140.6 億円程度の収入確保となる見込みである。また、支出の部においては、人件費が当初予算より 0.4 億の増となるなか、教育研究費が 5.4 億の減、管理経費が 0.2 億の減がそれぞれ当初予算より見込まれる。その結果、教育活動収支差額は、57.3 億円の支出超過となり、当初予算比で 10.0 億円の支出超過が抑制される見込みとなった。

教育活動外収支については、受取利息・配当金および、その他の教育活動外収入、教育活動外収入の増を受けて収支差額においては 44.7 億円となり、当初予算比で 12.5 億円の収入増となる。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合わせた経常収支差額は、12.6 億円の支出超過となり、当初予算比で 22.6 億円の支出超過が抑制される見込みとなった。

特別収支差額は 9.3 億円収入超過の見込みである。

経常収支差額と特別収支差額を合わせた基本金組入前当年度収支差額は、4.2 億円の支出超過となる。基本金組入額は、駅伝部寮の新築工事や各所設備更新工事、15.7 億円となる見込み。当年度収支差額は 6.8 億円の支出超過となり、当初予算比で 25.3 億円の支出超過が抑制される見込みとなった。これに基本金取崩額を折り込んだ翌年度繰越収支差額は 105.0 億円の支出超過となる。引き続き、収支改善へ向けたより一層の取り組みが急がれる。

その他、2022 年度は、駅伝部新学生寮の建設工事を完了し、スポーツ関連機材・什器備品等の別途工事を実施した。また、運用を終了した滝山寮の解体工事を実施した。池田記念講堂の耐震化改修工事の準備として第三者機関による天井評定取得のための設計業務を進めた。また、ニューロワール食堂の外壁落下対策改修工事を実施するなど、キャンパス全体の安全面・防災面を強化する整備を行った。

経年劣化した設備機器の更新工事として、教育学部棟マルチメディア教室の映像・音響設備、本部棟などの照明設備、池田記念講堂および本部棟の空調設備等の更新工事を実施した。その他建物の補修・改修を実施した。

#### 【今後の課題および 2023 年度以降の方針】

##### （１）キャンパス整備計画

2023 年度のキャンパス整備、改修等の主な計画は以下のとおりである。

##### I. 特定天井等耐震化改修工事・別途工事

大規模な天井をもつ特定建築物の耐震化工事を行う計画に基づき、本年度は、池田記念講堂の耐震化改修工事を実施し、併せて、舞台機構・照明・音響等の別途工事を実施する。

## II. 外壁改修工事

硬式野球部が使用する光球トレーニングセンターの外壁補修工事を実施する。

## III. セントラルクラブの解体工事

老朽化したセントラルクラブの解体工事を実施する。

## IV. その他

中央教育棟・理工学部E棟のマルチメディア教室の映像・音響設備の更新工事、本部棟・学生ホールなどの空調設備更新工事、その他必要に応じて各施設・設備等の整備、改修を行う予定である。